

刊行にあたって

本書は、2019年から取り組んできた福知山市夜久野町の夜久野末窯跡群の分布調査、および夜久野町化石・郷土資料館が所蔵する後期古墳出土資料の実測調査の報告書である。この研究には、主として京都府立大学地域貢献型地域研究（ACTR）を利用し、文化遺産全体を視野に入れつつ、自然科学との協業もおこないながら、文理融合の研究として進めてきた。そもそも人の暮らしは自然環境と切り離せない関係にあり、古代の窯業も然りである。夜久野末窯跡群は、古代の須恵器窯跡が自然豊かな山中にそのまま眠っているという利点もあり、生産にあたった人々の息づかいを感じられる状況にある。生業と環境というテーマにとって優れたフィールドであることを改めて痛感している。

個人的な感懐になるが、京都府立大学への赴任以来、夜久野の地には30年近く、断続的にはなるが、しばしば足を運んできた。変わらない風景が迎えてくれることに喜びを感じつつ、山中が次第に荒廃していくことに胸が痛む思いがしている。窯跡群の活用によって、少しでも山中が整備され、「うつわの里」を体感できる史跡になることを念願している。

本研究にあたっては、地元の高内、末、日置のみなさまにお世話になり、とりわけ自治会の役員のみなさんには、調査の周知などの労をおとりいただいた。また、共同研究者である東昭吾氏、福知山市文化・スポーツ振興課の松本学博氏、鷲田紀子氏には、調査にお付き合いいただき、多くのご支援を得た。改めて謝意を表したい。

編者